

「正義と平和は口づけする」

渉外委員長 富永憲司（柏木教会牧師）

「正義と平和は口づけする」、と詩編 85 編 11 節にあります。聖書は、「正義と平和」をワン・セットで考えています。ところが、この世では正義と平和が一致せず、分裂することが多いのです。例えば、「西側の正義とロシアの正義は違う」という主張がそうです。日常生活においても、わたしの正義と他者の正義が常に衝突してしまう現実を、わたしたちは生きています。

そこで、正義と平和を巡り相反する二つの現実主義的方策が模索されていきます。第一は、正義を犠牲にして平和を樹立する道です。二つの正義がぶつかり合う時、一方が譲歩して相手の正義に合わせるという、いわば「長い物には巻かれろ式平和」ですが、身近に頻繁に見られる平和構築の一つの方策です。

もう一つの道は、自己の正義を押し通し、平和を犠牲にする孤高の道です。しかし、わたしたちの教会は、「(神の) いくつしみとまこと」(11 節) に対する信仰を持つゆえに、現実世界での「正義と平和が口づけ」する交わりをあきらめたり、責任放棄したりせず、どこまでも「正義と平和の一致」を目指して歩んで行かねばならないと思います。

「正義と平和の一致」を、渉外委員会が取り組むエキュメニカルな交わりに当てはまめるとこうなります。諸教会一致のために各個教会の神学や制度を犠牲にして、ユニフォームを着るように大同団結的一致を追い求める道と、どこまでも自己の神学や制度に固執して孤高の道を行く歩みがあるでしょう。しかし、わたしたちは両者を二律背反的に捉えるのではなく、主の「一つとなるために」(ヨハネ 17:22) というお約束と聖霊の導きを信じ、忍耐深い神学議論によって、諸教会の一致の交わりにお仕えしてまいりたいと思っています。

渉外委員会は、過ぐる 5 月 9 日に日本キリスト改革派教会との協議会の時を持ちました。改革派からは袴田康裕先生（大会副議長、神戸改革派神学校専任教授）が、日キからは澤正幸先生（福岡城南教会牧師）が「コロナ禍における教会」の諸問題を取り上げて発題をなし、それに両先生がそれぞれ批判的に応答をする。そして、参加者全員が意見等を述べる、という形式の会でした。とても良い議論でしたので大会 HP に公開します。是非、ご覧ください。

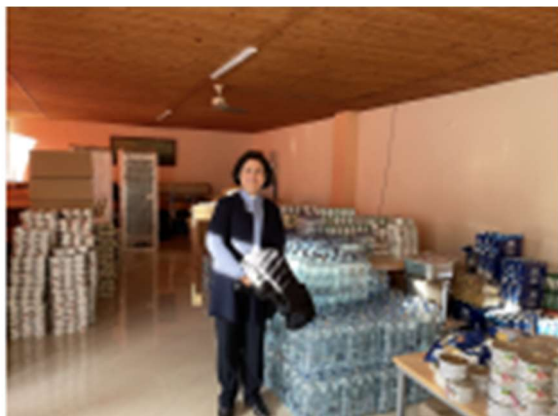
また、6 月 20 日には、日本基督教団全国連合長老会との交流会を持ち、「部制(時代)を振り返る」と題して話し合いました。日本キリスト教会からは、この時代の歴史を良く知り研究もなさった五十嵐喜和先生（西経堂伝道所牧師）に発題していただきました。これも、公開できればと考えています。

今回の「便り」では、ロシアによる侵略戦争によってウクライナから避難せざるを得ない方々を支援している「世界改革教会共同体 (WCRC)」に属する姉妹教会、ハンガリー改革派教会とその難民支援活動を覚えていきます。

ウクライナ支援募金の報告とお礼

大会議長 有賀文彦（大垣教会牧師）

このたびのウクライナ支援募金に対して、全国の教会・伝道所から120件、総額6,450,629円の献金がささげられました。心から感謝申し上げます。



ウクライナを訪れた WCRC 議長ナジラ・カッサーヴ牧師

この募金は、趣意書で申しましたように、ハンガリー改革派教会にお送りしました。募金先をハンガリー改革派教会にしたのは、共に世界改革教会共同体(WCRC)に属する交わりがあること、そして同教会が東日本大震災のときにいち早く救援隊を派遣してくれたことを覚えてのことでした。今回も、隣国であるウクライナにおける戦禍のもとで抑圧され苦しんでいる人々の支援のために尽力されている同教会の働きと労苦を覚えつつ、皆さまからの募金をお送りしました。（写真左は、

特に今回ハンガリー改革派教会とのやり取りを通して、ウクライナ西部トランスカルパティア地方の改革派教会と同教会との交わりについても知ることができました。ハンガリー改革派教会では、ロシアによる侵攻がなされた当初より、ウクライナからハンガリーに逃れてきた避難民の支援のため、「支援機構」が活動を始めていました。しかし、同教会とも関係の深い「トランスカルパティア地方」でも、同地方に逃れてきた避難民の支援、また若い世代がハンガリーに避難した後同地方に残った高齢の方々の支援などでさらに緊急の支援が必要となりました。そこで、ハンガリー改革派教会では、「トランスカルパティア改革教会との連帯基金」を立ち上げ、その働きを支援するようになったようです。そして、ハンガリー改革派教会の要請もあって、私たちの募金も、この「連帯基金」に多く送りました。この戦争がどうなるのか、残念ながら今なお見通しが立たない状況です。私たちも、主の平和が一刻も早くかの地に来るよう、これからも祈り続けていきたいと思ひます。



※ 以下に、二回にわけて送った日本キリスト教会による支援献金のうち、最初の「ハンガリー改革派教会支援機構(HRCA)」宛の送金に対する先方からの感謝状を掲載します。その後、この手紙をうけて、ウクライナ国内の難民や入院患者等の支援に特化した「トランスカルパティア改革派教会との連帯基金」にもまとまった送金をし、6月中に実務が完了しました。なお、本稿における写真は、エキュメニカル担当のバラズ・オドール牧師にウクライナ西部トランスカルパティアの現地から送っていただいたものです。

日本キリスト教会御中
親愛なる兄弟、大会議長 有賀文彦 様

2022 年 3 月 28 日

牧師 バラズ・オドール
エキュメニカル担当事務

ハンガリー改革派教会大会を代表し、議長ゾルタン・バログ監督（ビジョップ）に代わって、私たちの心からの謝意を表します。連帯を示す議長書簡と、日本キリスト教会の兄弟姉妹の祈りと配慮に、深い感銘を受けていることをお伝えさせていただきます。



まことに、私たちは、ヨーロッパの心臓部でなされた攻撃に動揺し、慄きを覚えてまいりました。この侵攻によって、ウクライナでは一般の市民に、苦痛がもたらされています。平和の君なる私たちの主の御名において、平和を求める私たちの立場と責務とを明らかに示すことが、キリスト者としての私たちの証しとなるはずです。私たちキリスト者の務めは、圧迫されて苦しむ人々の側に立って緊急救援を提供するとともに、中・長期的にかれらを迎え入れて支援を差し出すところにあります。

私たちの心は、ウクライナの人々のもとに赴いてまいります。なかでもウクライナ西部の地域、トランスカルパティアの姉妹や兄弟のために特別な関心を寄せ、痛みを分かち会いたいと思うのです。そこにはハンガリー系の改革派コミュニティがあり、その教会〔トランスカルパティア改革派教会〕は、世界改革教会共同体（WCRC）のメンバー教会であると同時に、歴史的にはハンガリーの内部ないし隣接の地であるカルパティア盆地にあって、ハンガリー改革派教会に属するメンバーでもあります。

いまいちど、ハンガリー改革派教会支援機構（HRCA）によって整えられた大変な働きのためのご協力とご支援に対し、真心から感動を覚えつつ御礼を申し上げます。HRCA は、ハンガリー



リー国内における難民受け入れと、ウクライナにおける国内避難民の人道支援を行っています。また、トランスカルパティアにおける私たちの教会を支援しています。それによって、ハンガリーに逃れた家族と離れ離れになってしまったコミュニティの高齢者のケアをするためです。〔以下、実務に関する一部本文を省略〕

どうか、これからも交わりを続け、いつまでも公正な、ウクライナの平和のため、世界各地の平和のために、祈り合いましょう。そして、来るべき我らの神の国をしるしづけ、仕える道具となりましょう。神の国、そこには争いも憎しみも存在しません。

神が皆さまの宣教奉仕（ミニストリー）を、豊かに祝福してくださいますように。祝福と平和、主にありて。



Taiwan Ecumenical Forum

至る所にある「新しい冷戦」を考えて

九嶋果林（札幌北一条教会執事）

2022年4月26日、台湾基督長老教会主催による「台湾エキュメニカル・フォーラム」（以下 TEF）のユース・ウェビナー（Webinar＝インターネット上で開催するセミナー）が開催されました。昨今のウクライナ侵攻の情勢を念頭におきつつ、TEF の平和教育の一環として開催されたものです。

主題に「Neo-Cold War（ネオ冷戦）：北東アジアにおけるグローバル帝国の地政学の復活」とかけられ、ウクライナ情勢のみならず幅広い分野における「ネオ冷戦」について、日本、韓国、台湾、タイから4人のパネリストによる発題がもたれました。主題が「ネオ冷戦」と打たれたものの、個人レベルのジェンダー間や年代間、あるいは国家間での非難やいがみ合いはさして新しいものとは呼べません。しかし、現代におけるその発展や表出の仕方が「ネオ」である、と発題から考えることができました。たとえば、香港における民主化運動は若い世代が中心となり、インターネットによる迅速で国境を優に超える報道が大きな役目を果たし、タイなどの他国へも波及したと言えること等です。各パネリストによる率直な所感や、歴史的観点を踏まえたうえでの現状の考察は、非常に感慨深く良い学びとなりました。各地の各分野における、平和を求める活動が、神様に守られますようにお祈りします。



【編集後記】

「渉外委員会便り」第47号をお届けします。例年、7月発行の号では、「世界の教会を覚えて」というテーマを取り上げ、一昨年と昨年は、コロナ禍にある世界の教会について取り上げました。本年度は一転、2月に突如始まったウクライナ戦争の中で苦闘するウクライナの教会、それを取り巻く支援活動について中心的に取り上げることとしました。また、「台湾エキュメニカル・フォーラム」においてもこのことが覚えられたウェブ・セミナーが開催されたことが報告されています。可能な支援を行なうことはもちろんですが、ウクライナの教会のために、ともに執り成しの祈りを捧げてまいりましょう。